

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第990号 平成27年8月31日

教師が変われば子どもも変わる

「教師が変われば子どもも変わる」というのは、今から30年近く前に出版された本の題名です。

この本の表題一つとっても、教師に求められている力や教師に対する期待は、昔も今も変わっていないという事が良く分かります。

成長し、変化し続ける子ども達にとって、日々接する教師の存在は極めて大きなもので、その教師の教育実践を始めとする言動が与える影響には計り知れないものがあります。

何気なく発した教師の一言が、子どもの体の中に眠っていた才能を覚醒させる事もあれば、逆に、勉強する気を失い、場合によっては不登校の原因になったりします。ところが、自分の言葉や行動が子ども達の心の中で様々な、しかも、大きな化学反応を起こしている事に気付かない、あるいは、考えが及ばない教師が少なくないのではないのでしょうか。矢巾北中学校の男子生徒が自殺した事件における担任教師はその典型だと感じていますが、男子生徒の心の中で沸騰している思いに対して、担任教師が発していたメッセージの軽さには、驚くばかりです。

教師の言動によって、子ども達の力が伸びる事もあれば、逆にやる気を失わせたりする事が現実にある以上、一人一人の教師は、常に自分の言動を振り返り、より良き実践者となるよう努力し続ける事が必要です。

ギリシャ神話に、キプロスの王ピグマリオンは、自分で作った大理石の乙女の像に恋をし、生きた女性となるよう日夜祈っていたところ、遂にその望みがかなえられた、というお話があります。これは、大きな「期待」には現実を変える力があるという事を示唆しているように思います。

1964年、アメリカの教育心理学者ロバート・ローゼンタールは、一つの実験結果を発表しました。

その実験はサンフランシスコの小学校で行われたもので、各学級からそれぞれ20%の児童をランダムに抽出し、新年度の初めにそのリストを担任教師に「これらの児童達は、この年度内に高い学力を上げる可能性のある児童達である」という偽りの情報を告げて渡します。これによって、担任教師は、リストの子ども達は知的に伸びる可能性がある信じ、期待を込めて子ども達に接する事になります。

この実験によると、たったこれだけの事で、教師から知的に伸びると期待された児童達と、そうではない児童達と比較すると、期待された児童達の方がより知能指数（IQ）が伸びたとしています（以上、浜名外喜男他著「教師が変われば子どもも変わる」から）。

ローゼンタールは、この実験結果から、「人は期待された成果を出す傾向がある」と結論付けています。また、この実験結果に対しては、上述のギリシャ神話にちなんで「ピグマリオン効果」とも呼ばれています。

この「ピグマリオン効果」に対しては、当然の事ながら、「ピグマリオン効果」は存在する、いや存在しないと様々な議論が沸き起こり、その後の研究によっても、結果は分かれるようです。

私は、専門家ではありませんので、論評できる立場にはありませんが、例えば、北海道師範塾の教師養成講座で指導している若い人達を見ていると、単に私が心の中で期待をしても、それだけでは成果を出すとは思えません。つまり、疑い深い私としては、「ピグマリオン効果」を素直に信じる事は出来ないのですが、ただ、期待する気持ちを持つ事で、その期待する相手に対する私の言動が変わるという事は、確かにあると思います。

「君の事、期待しているよ」と一声掛けるだけでも、声を掛けられた方はやる気が出て来ますし、期待する側も、期待が大きい分、激励の言葉を掛けるとか、勉強の手助けをする等手を差し伸べる機会も増えるでしょうから、自ずから成果も上がるのだと思います。

「教師が変われば子どもも変わる」という本の中で、下表のように、教師は期待に沿って子ども達に異なる行動を取ると指摘しています。

教師の行動	高期待	低期待
正答に対する称賛	多い	少ない
誤答に対する叱責	少ない	多い
手掛かりの付与	多い	少ない
フィードバックの付与	多い	少ない
努力の要求	多い	少ない
ほほ笑み・視線	多い	少ない
応答を待つ事	多い	少ない

気を付けなければならない事は、子ども達は、上記の表のような教師の差別的行動を通して教師の思いをしっかりと読み取っているという事です。

ただ、教師の教育的愛情による「期待と注視」は「ピグマリオン効果」の前提とはいえ、それをどう表現して行くかが重要だと思います。幾ら、愛情を持って子ども

も達を注視していたとしても、それを具体の言葉や行動で示さなければ、教師の思いは子ども達に十分に伝わらないと思います。

教師の思いが伝わってこそ、子ども達は、教師の「期待や注視」に報いたいと思い、一生懸命努力しようという気持ちになるのではないのでしょうか。その上で教師として重要な事は、子ども達の取組や努力を真っ当に評価し、しっかりと褒める事だと思います。そうする事で初めて、「ピグマリオン効果」をより確かなものとして実感する事が出来るでしょう。

(塾頭 吉田洋一)